**桜田門**

1620年頃に完成した桜田門は、旧江戸城の現存する最も大きな門です。これは四角を意味する枡形の防御門です。

桜田門は、四角(枡形)の防御門を形成する2つの門からなっています。小ぶりで頑丈な高麗門を後ろには、大きな櫓門が配置されています。二つの門は直角に配置され、閉鎖された空間を作り出しています。これによって、侵入者は一度中に入ってから直角に曲がらざるを得なくなるため、速度が落ちて攻撃を受けやすくなります。射手やその他の兵士たちは櫓門に陣取り、高麗門を突破した敵陣に矢を放ち、石を落としていました。

桜田門は日本重要文化財に指定されています。